



2024.2.13

## ミラノ工科大学によって社会的、経済的、文化的影響の観点から研究・分析されたミラノサローネという名のエコシステム

世界で唯一無二の現象が巻き起こるミラノサローネ開催期間、ミラノ工科大学デザイン学部とミラノ市が共同で、その組織的、経済的、文化的、社会的、起業家的、専門的な視点と都市への影響を理解するために、同イベントが推進し、ミラノ工科大学デザイン学部が実施した科学的根拠に基づく調査には十分な価値があります。

ミラノサローネ国際家具見本市(以下、ミラノサローネ)は、起業家、ジャーナリスト、コレクター、知識人、批評家、デザイナー、建築家、クリエイター、知識労働者、美の愛好家など、世界中からさまざまな人々が集うこのイベント。チャンスを与えてくれるネットワークであり、積極性、熱意、イニシアチブ、感動を与えてくれる刺激的な舞台であります。にもかかわらず、今日に至るまで、サローネとその周辺に生じるあらゆるものとの相互作用や、それらがミラノに与える影響については、合理的かつ網羅的に、科学的に研究されていませんでした。

この認識から、ミラノサローネは、ミラノ工科大学のデザイン学部とデザイン学科に、この関係をより深く探求し、見本市開催期間に持続可能性、包摂性、循環性を促進するための調査を委託しました。サローネとミラノ工科大学の意図は、公的機関やデザイン部門の主要な利害関係者(それぞれが独自の内外のガバナンスシステムを持つ)を巻き込む現象の包括的かつ学際的調査で、多くの関係者が参加するラウンドテーブルが、まさにこの数日間に開かれました。

### ミラノサローネ代表 マリア・ポッロ氏のコメント:

様々な方面や環境からの刺激を集めつつも、何よりも60回以上の開催を経て、その必要性を深く感じていた私たちは、文化・社会・経済的な影響、そしてミラノサローネ開催期間が持つ成長、遺産、技能の伝承といった面での影響力を調査することを目的とした、野心的で本質的な調査プロジェクトを立ち上げることにしました。この責任ある取り組みにおいて、私たちは、科学的な厳密さをもって、このユニークな現象を分析し、短期的、中・長期的に都市の状況に与える影響を強調しながら語り直すことができる、権威あるパートナーを選びました。ミラノ工科大学の協力とミラノ市の支援のお陰で、常設の観測所を設立するという目的を果たし、その観測所では、その日中に街で起こることを調査、観察、解釈するシステムを開発し、見本市全体の持続可能性、包摂性、循環性をより保証するための行動を促進します」



## 【ミラノサローネのオブザーバトリー/常設観測所の設置】

この研究プロジェクトは、サローネというエコシステムを独自の解釈で調査し、新たな指標の収集と分析、そしてサローネで活動するステークホルダーの集成的かつ多角的な考察によって、サローネという現象の社会経済的な広がりを探ることを目的としています。2024年に実施されるこの最初の事業は、ミラノサローネとミラノ市に影響を与える機会と課題を特定するための常設プラットフォームである、将来のミラノサローネのオブザーバトリーの基礎を築くものです。

### ミラノ工科大学のドナテッラ・シュウト学長のコメント:

「ミラノのようなダイナミックでクリエイティブな都市にいるということは、知識が詰まった発展の中心地として、ミラノサローネ開催期間を含め、ミラノの最も重要な現象を理解する責任を負うということです。このプロジェクトにおいて、ミラノ工科大学は、デザイン・エコシステムの関係者(それだけではない)間のコネクターおよびファシリテーターとして機能し、共通のビジョンと目標を共に構築します。これは、持続可能で責任ある成長のために、機関、学界、社会、文化間の対話を活性化させる良い習慣の一例です」

## 【オブザーバトリーと報告書の出版】

オブザーバトリーは、家具、デザイン、プロジェクト文化に特化した1週間を、より持続可能で包括的なものにし、ミラノとその現在の政策との対話を図るため、今後の決定に影響を与えることができます。調査は、民間および公的機関から提供された異種データベースの分析、ステークホルダーの参加プロセス、ミラノ工科大学が実施するモニタリングと観察活動に基づく混合調査手法を用います。調査結果は、普及のための最終報告書としてまとめられ、年内に出版される予定です。

### ステファノ・マッフェイ教授とフランチェスコ・ズーロ教授のコメント:

『ミラノサローネという名のエコシステムは世界でも類を見ないものであり、多くの模倣が試みられている。それは、毎年、技術、スタイル、行動、美の表現に関する新しい知識を創造するために、参加者と資源を伴う合唱現象である。工科大学は、方法論的アプローチとデザイン主導の姿勢で、データと情報を体系化し、それらを方向付けることによって、関係者間の対話を誘発し、サローネを筆頭に、運営者や機関がその持続可能性と美しさを高めるために、この現象をよりよく理解できるようにしたいと考えています』

プレスお問合わせ先: 山本幸 [yuki@milanosalone.com](mailto:yuki@milanosalone.com)

International press info: Marva Griffin-Patrizia Malfatti [press@salonemilano.it](mailto:press@salonemilano.it)